

Chapter 1

第1章 山梨市の概況と課題



第1章 山梨市の概況と課題

1. 山梨市の立地条件と特色

(1) 広域的な立地条件

本市は、甲府盆地の東部に位置する田園都市で、JR 中央本線、中央自動車道で東京都心から90分と交通条件に恵まれています。北部は秩父多摩甲斐国立公園に属しており、多くの登山客・観光客が訪れ、山梨県の北の玄関口となっています。

本市は、東京から約100km圏、山梨県の北東部、甲府盆地の東部に位置し、西から南にかけては甲府市及び笛吹市に、東は甲州市、北は埼玉県秩父市及び長野県川上村にそれぞれ接しており、市域面積は289.87km²と県内で4番目の広さとなっています。

また、甲武信ヶ岳は千曲川・荒川・笛吹川の最初の一滴が生まれる源流域であり、太平洋と日本海の分水嶺として有名です。

北部の秩父山系や西沢渓谷は秩父多摩甲斐国立公園に属しており、多くの登山客・観光客が訪れています。

森林が市域面積の8割以上を占め、笛吹川とその支流の日川、重川、兄川、鼓川、琴川などもたらす肥沃な土地の恩恵を受け、なだらかな斜面や平坦地に広がる桃・ぶどうの果樹園は、美しい郷土景観とともに、県内有数の生産量を誇っています。

交通条件としては、JR中央本線、中央自動車道で東京都心から90分と交通利便性が高く、甲府市、甲州市には西関東連絡道路や国道140号、国道411号をはじめとした幹線道路、埼玉県秩父市へは雁坂トンネルを経由して、それぞれ結ばれています。雁坂トンネルの開通によって北関東と結ばれたことにより、甲府盆地の北の玄関口として重要な位置にあります。

隣接する甲府市では、リニア中央新幹線山梨県駅の設置が予定され、本市に隣接する笛吹市では新山梨環状道路（東部区間）の整備も進められているなど、今後の広域的な交通条件の向上により、更なる発展が期待されています。

■ 山梨市の広域的な位置



(2) 山梨市の特色

本市の大きな特色としては、「標高差のある地形構造とコンパクトなまち」、「甲府盆地の北の玄関口」、「優れた景観と豊富な観光資源」、「全国有数の果実の産地」、「特色ある歴史性と豊かな歴史・文化遺産」が挙げられます。

① 標高差のある大地の構造とコンパクトなまち

本市の地形は市域の中央部を流れる笛吹川を骨格に、北部は日本百名山のつらなる山岳森林地域、南部の笛吹川右岸側は丘陵地、左岸側は平坦地で構成される明快な地形構造となっており、南部の平坦地と北部の山岳地域では約 2,300m の標高差があります。

灌漑によって低地部に開かれた南部の山梨地域や旧街道等に沿って点在する集落地など、一定の都市機能を備えたコンパクトな市街地・集落地が形成されています。



・空から見た山梨市

② 甲府盆地の北の玄関口

本市は、JR 中央本線、中央自動車道で東京都心から 90 分と交通利便性が高く、甲府市、甲州市へは JR 中央本線や国道 140 号をはじめとした幹線道路で、埼玉県秩父市へは国道 140 号雁坂トンネルを経由して結ばれており、甲府盆地の北の玄関口として重要な位置にあります。今後本市周辺では、リニア中央新幹線山梨県駅の設置が予定され、静岡県と長野県を結ぶ中部横断自動車道や新山梨環状道路（東部区間）の整備も進められているなど、今後の広域的な交通条件の向上により、更なる発展が期待されています。

③ 優れた景観と豊富な観光資源

本市は約 8 割を森林が占めています。笛吹川や重川、日川などの河川とその支流が造り出した肥沃な土地の恩恵を受け、なだらかな斜面には果樹園が広がり、峡東地域のイメージを牽引する美しい郷土景観を形成しています。

また、丘陵地からは甲府盆地が一望できるなど、眺望景観に優れ、笛吹川フルーツ公園から見渡す夜景は新日本三大夜景に選定されています。また、富士山の眺望も優れており、大平高原や彩甲斐公園、荒神山、帯那山、笛吹川フルーツ公園など、市内 12 箇所からの富士山の眺望は、関東の富士見百景にも選定されています。

平成 30 年に文化庁により、「葡萄畑が織りなす風景～山梨県峡東地域～」のストーリーが、日本遺産に認定されました。



・桃畑と富士山の眺望



・西沢溪谷

北部山岳地域は、秩父多摩甲斐国立公園に属しており、日本百名山である甲武信ヶ岳など2,000m級の山々が連なり、多くの登山客等にぎわっています。また、美しい渓谷美と日本の滝百選などの名所を抱える西沢渓谷、県自然環境保全地区に指定される乙女高原、小楢山など、豊かな自然環境に恵まれ、四季折々の自然美や森林浴を求めて多くの観光客が訪れています。

④ 全国有数の果実の産地

本市の産業は、ブドウ、モモなど果樹栽培を中心とした農業が主流であり、経営耕地面積の約95%（平成27年2月現在）が樹園地で占めています。

牧丘地域は全国有数の巨峰の産地としても知られており、市内でのワインの生産も盛んで、最近ではワイナリーや観光農園にも多くの観光客が訪れています。また、農業特区を契機とした法人の農業参入や市民農園の開設のほか、果樹をテーマとした笛吹川フルーツ公園、国道140号沿いの2つの道の駅やJAの農産物販売所では、地域農家の果物や特産物が並ぶなど、全国有数の果物の産地となっています。

平成28年度には、本市を含む峡東地域の「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」が「日本農業遺産」の認定を受けました。



・モモ



・ブドウ

⑤ 甲斐の政治経済文化の中心地として発展してきた歴史性と豊かな歴史・文化遺産

本市が属する峡東地域は、古代の政治・経済・文化の中核地であったとされ、中世には甲斐源氏武田氏や安田氏の本拠地が、近世には江戸幕府御三卿の陣屋が置かれるなど、甲斐の政治経済文化の中心地として発展してきた歴史を有しています。

万力公園には、暴れ川であった笛吹川を治めるための万力林、雁行堤などがあり、これらは先人たちの治水・利水の知恵と文化を今に伝えるものであり、治水史上全国的にも貴重な遺構となっています。

市内には、国宝清白寺仏殿、多くの重要文化財を有する窪八幡神社をはじめ、中牧神社本殿、旧坂本家住宅、上野家住宅など数多くの文化的価値のある建造物が存在します。また、養蚕業による地域の発展を支えた、切妻造民家群も点在するなど、歴史と文化の香り豊かな落ち着いた雰囲気醸し出しています。

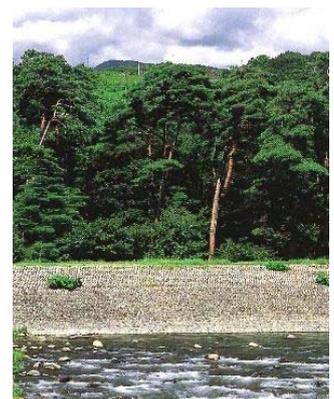
各地域には、「塩平の獅子舞」、「黒戸奈神社の太々神楽」、「隼の社日行事（大草鞋作り）」、「徳和天神祭」、各地の打囃子など、古くから受け継がれてきた、伝統芸能や祭りが地域文化として根付いています。



・窪八幡神社



・雁行堤



2. 山梨市の概況

(1) 都市の成り立ち

本市の歴史は古く、中世の政治・経済・文化の政治経済文化の中心地として発展してきた歴史を有しています。

市内には、歴史を伝える資源が数多く分布しています。

■先史・古代

本市の歴史は古く、八幡地区では、ナウマンゾウ化石や旧石器時代のナイフ形石器が出土しています。また、牧丘奥豊原遺跡から縄文時代早期の押型文土器が、東後屋敷遺跡から縄文時代前期の土器などが出土しています。弥生時代には市内唯一の集落遺跡である上石森の堀ノ内遺跡がみられます。古墳時代には、大型横穴式石室を持つ牧洞寺古墳や天神塚古墳、稻荷塚古墳などが造られました。奈良・平安時代の遺跡としては日下部遺跡、江曾原遺跡、三ヶ所遺跡、膳棚遺跡などがあり、歴史学上においても重要な遺跡として知られています。

■中世

古代から中世にかけて牧荘、小原荘、八幡荘、安多荘などの荘園が記録に残っており、平安時代後期には甲斐源氏の一族が甲府盆地の各地へ進出して勢力を拡大しますが、市域に存在した安田郷は甲斐源氏の一族である安田氏が本拠とし、小原（山梨市小原）には安田氏の館があったと伝えられています。室町時代には甲斐守護・武田信昌が落合に居住し、「落合御前」と呼ばれ、信昌の菩提寺である永昌院が創建されました。また市域には信昌嫡男・信繩の館があったと考えられています。

■近世

武田氏の滅亡後、甲斐は徳川氏の領地を経て豊臣大名が治めました。

浅野氏時代には、後屋敷の新町に金峰山への参詣道である金山道を引き入れ、市場を開設しています。近世には、市域の諸村は甲府藩領を経て幕府直轄領となります。また、市域には旗本領や御三卿領である田安家領、清水家領が含まれ、両家領の陣屋も置かれました。この時代には甲州街道が整備され、市域では栗原宿が栄えました。

■近代～現代

明治期には藤村県政における青梅街道の開削や亀甲橋の架橋が行われるとともに、市域には東山梨郡役所が設置され、東山梨郡行政の中心地となっています。明治 36 年（1903 年）には中央線日下部駅（山梨市駅）が開業しました。また、正徳寺出身の根津嘉一郎（初代）は甲州財閥の一人として財界で影響力を持ち、地元においても根津橋の架橋を行っています。

明治 22 年に東山梨郡釜和原村・釜川村・柚木村（上柚木）が合併して三富村が発足し、昭和 29 年に東山梨郡日下部町・加納岩町・山梨村・八幡村・岩手村・後屋敷村・日川村が合併して旧山梨市が、諏訪町・中牧村・西保村が合併して牧丘町が発足しました。平成 17 年（2005 年）3 月 22 日に山梨市・牧丘町・三富村が合併し、改めて新山梨市が誕生しました。

(2) 人口の動向

近年の本市の人口は減少傾向にあります。世帯数は微増傾向にあります。

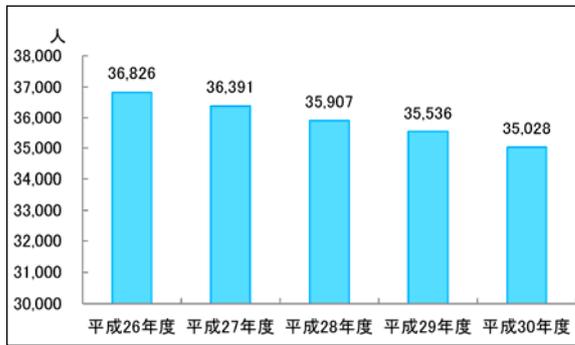
65歳以上の高齢者の占める割合は、山梨県及び全国の平均を大きく上回り、急速に高齢化が進行しています。

本市の人口の約8割が都市計画区域内に集中しており、用途地域が指定されている山梨市駅周辺に人口集中地区(DID 地区)が広がっています。

① 総人口・世帯数の推移

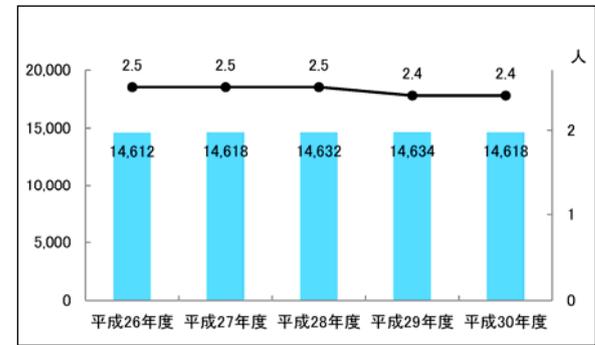
平成30年10月1日現在の山梨市の人口は、35,028人で(住民基本台帳)、世帯数は14,618世帯で、人口は平成26年との比較では、4.9%の減少となっています。また、世帯数は横ばいですが1世帯あたりの人数は減少しており、核家族化の傾向が伺えます。

■人口の推移



(資料：住民基本台帳(各年10月1日現在))

■世帯数と1世帯あたりの人数の推移



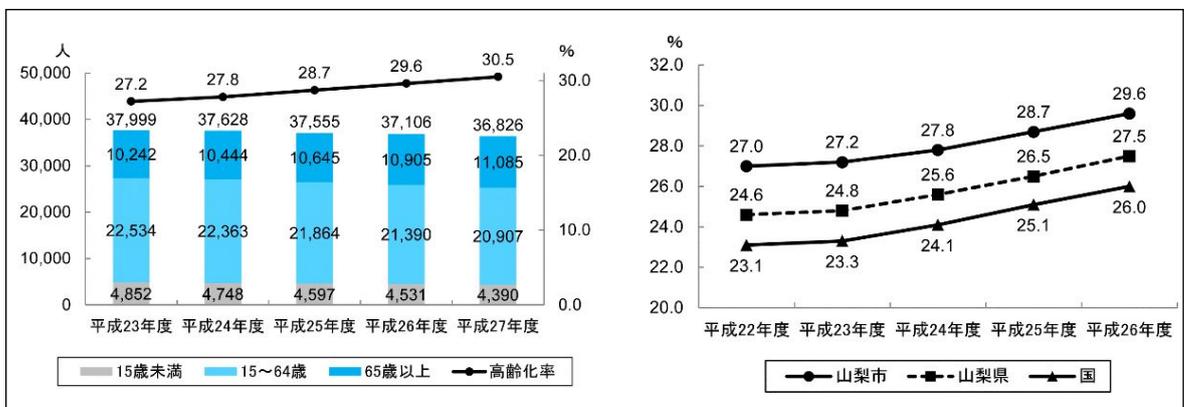
(資料：住民基本台帳(各年10月1日現在))

② 少子・高齢化の状況

平成27年4月1日現在の65歳以上の高齢者の占める割合は30.5%で、県平均の27.5%、全国平均の26.0%を大きく上回り、およそ4人に1人が高齢者となっています。

年齢別人口(平成27年)で見ると、男女とも65~69歳の団塊の世代が最も多くなっています。また、年少人口及び生産年齢人口の割合が低く、少子高齢化の進行が伺え、高齢化率は今後も上昇を続けることが想定されます。

■少子・高齢化率の推移



(資料：山梨市地域福祉計画)

③ 地域別人口の推移

本市の人口の約8割が集中している山梨地域は、人口約3万人で近年は減少傾向にあります。

牧丘地域及び三富地域は、山梨地域より早い速度で人口減少が進んでいます。

■地域別人口の推移

地 域	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
山梨地域	30,814	30,522	30,216	29,983	29,660
牧丘地域	5,028	4,915	4,778	4,682	4,539
三富地域	984	945	913	871	829
計	36,826	36,382	35,907	35,536	35,028

単位：人

(資料：住民基本台帳)

④ 都市計画区域及び市街地の人口

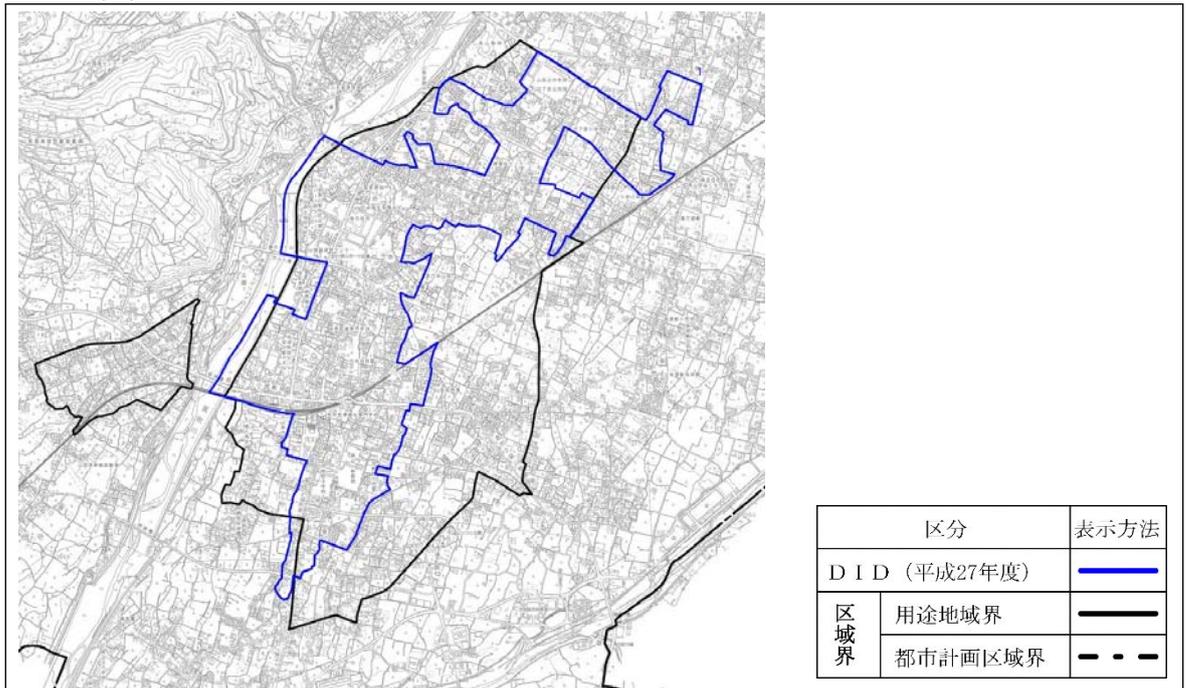
本市の人口の約8割が都市計画区域内に集中しており、古くから市街地が形成されている山梨市駅周辺に人口集中地区（DID 地区）が広がっています。

■都市計画区域及び市街地の人口（平成 27 年）

区 分	面積 (ha)	人 口		世帯数	
		人口(人)	比率(%)	世帯数	比率(%)
行政区域	28,980.0	35,141	100.0	12,961	100.0
都市計画区域	3,456.0	29,550	84.1	10,846	83.7
用途地域	334.5	8,787	25.0	3,459	31.9
DID 地区	179.0	5,057	14.4	—	—

(資料：平成 29 年度山梨市都市計画基礎調査)

■人口集中地区（DID 地区）



(出典：平成 29 年度山梨市都市計画基礎調査)

⑤ 人口流動の状況

(ア) 昼夜間人口

平成 27 年の国勢調査によると、本市の昼夜間人口比率は 90.3%で山梨県全体の 99.2%を下回る流出超過で、ベッドタウン的な性格を有しています。

■昼夜間人口（平成 27 年）

区 分	山梨市	山梨県
夜間人口 [常住人口] (人)	35,141	834,930
昼間人口 (人)	31,740	828,495
昼夜間人口比率 (%)	90.3	99.2
流入人口 (人)	6,038	11,812
流出人口 (人)	9,439	18,247

注)・昼間人口：夜間人口+流入人口-流出人口

(資料：平成 27 年度国勢調査)

・昼夜間人口比率：昼間人口÷夜間人口

(イ) 通勤・通学の状況

山梨市民の通勤・通学先は隣接する甲府市がもっと多く、次いで、笛吹市、甲州市の順となっており、本市との結びつきの強い都市となっています。

■流出人口（通勤）

<流出>

項 目		流出者数 (人)
常住地による就業者数		18,111
流出	就業者数	8,428 [流出率：47%]
流出先別の流出者数	県内	7,968
	1位 甲府市	2,703
	2位 笛吹市	2,033
	3位 甲州市	1,977
	4位 昭和町	204
	5位 中央市	194
	その他の市町村	857
	県外	324
不詳		136

注) 流出率：流出就業者数/常住地による就業者数×100 (%)

<流入>

項 目		流入者数 (人)
従業地による就業者数		14,927
流入	就業者数	5,244 [流入率：35%]
流入別の流入者数	県内	4,999
	1位 甲州市	1,747
	2位 笛吹市	1,538
	3位 甲府市	1,004
	4位 甲斐市	203
	5位 南アルプス市	110
	その他の市町村	397
	県外	109
不詳		136

注) 流入率：流入就業者数/従業地による就業者数×100 (%)

(資料：平成 29 年度山梨市都市計画基礎調査)

■流出人口（通学）

<流出>

項目		流出者数（人）
常住地による通学者数		1,803
流出	通学者数	1,092 [流出率：61%]
流出先別の流出者数	県内	898
	1位 甲府市	561
	2位 甲州市	130
	3位 笛吹市	71
	4位 上野原市	23
	5位 大月市	21
	その他の市町村	92
	県外	169
不詳		25

注) 流出率：流出通学者数/常住地による通学者数×100（%）

<流入>

項目		流入者数（人）
従業地による通学者数		1,633
流入	通学者数	922 [流入率：56%]
流入別の流入者数	県内	871
	1位 笛吹市	379
	2位 甲州市	313
	3位 甲府市	75
	4位 大月市	25
	5位 甲斐市	22
	その他の市町村	57
	県外	26
不詳		25

注) 流入率：流入通学者数/従業地による通学者数×100（%）

（資料：平成29年度山梨市都市計画基礎調査）

（ウ）転出入の状況

本市からの転出者及び本市への転入者の状況は下表のとおりで、転出が転入を上回る社会減となっています。

転出者の内訳は約6割が県内の周辺都市への転出となっており、主な転出先としては甲府市、笛吹市、甲州市の順となっています。転入についても同様の傾向が伺えます。

■本市の転出入の状況（平成27年）

転入（人）		転出（人）		社会増減（人）
県内	613	県内	713	△228
県外	329	県外	453	
その他	1	その他	5	
計	943	計	1,171	

（資料：平成27年度国勢調査）

(3) 産業

本市は、果樹栽培を中心とした農業や観光農業が基幹産業ですが、農業就業者の高齢化や後継者不足等により農業を取りまく環境は厳しい状況にあります。

商業は、郊外ショッピングセンターの立地により、既存商店街の衰退が懸念されています。

工業については、全体的に伸び悩みの状況にあります。

① 就業人口

本市の就業人口は、商業業務サービス等を中心とした第3次産業人口が最も高く、平成27年には全体の約6割を占めています。また本市の主産業である第1次産業や第2次産業はいずれも2割以下で、全体的に減少傾向にあります。

■就業人口の構成（平成27年）

区分	就業人口（人）	比率（%）
第1次産業	3,294	18.2
第2次産業	3,587	19.8
第3次産業	11,083	61.2
その他	147	0.8
計	18,111	100.0

（資料：平成27年度国勢調査）

■就業人口の推移

区分	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
第1次産業	4,370	4,073	3,432	3,294
第2次産業	5,653	4,585	3,741	3,587
第3次産業	11,001	11,452	11,141	11,083
計	21,023	20,159	18,412	18,111

単位：人

（資料：国勢調査）

② 産業の概況

（ア）農業

本市は、ブドウ・モモ・オウトウ等の果樹栽培を中心とした農業が主産業となっており、第一次産業の就業率は18.2%と県全体の割合よりも高く、典型的な農業地域を形成しています。

しかしながら、農家人口や農家数の減少、後継者不足、担い手の高齢化や耕作放棄地の増加など、農業をとりまく環境は厳しく、多くの課題を抱えています。

近年では、ブドウ・モモ・サクランボ狩り等の観光農業にも取り組み、多くの観光客が訪れており、果樹をテーマとした笛吹川フルーツ公園、国道140号沿いに立地する道の駅などでは、農産物の直売など、観光と農業の組み合わせた取り組みが進められています。

また、平成28年度に本市を含む峡東地域の「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」が「日本農業遺産」の認定を受けました。今後は、日本農業遺産認定地域であることを広くPRし、農業の推進につなげていくことが期待されています。

■農家人口と農家数の推移

年 度	農家人口 (人)	農家数 (戸)				
		総数	販売農家			自給的 農家
			専業農家	兼業農家		
				第1種	第2種	
平成 17 年	10,084	2,813	817	488	913	595
平成 22 年	6,771	2,517	879	393	726	519
平成 27 年	5,437	2,232	928	289	553	462

(資料：農業センサス)

(イ) 商業

商業は、事業所数、従業者数、年間商品販売額ともに減少傾向にあります。車型社会の進展による商圏の拡大などから、郊外の大規模店や近隣市の商業地に消費者の流出が進み、本市の既存商店街の衰退、中心市街地の空洞化が懸念されています。

■商業の推移

年 度	商店数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (百万円)
平成 16 年	486	2,451	40,130
平成 19 年	435	2,259	34,732
平成 24 年	361	2,011	29,471
平成 26 年	303	1,821	30,799

(資料：商業統計調査)

(ウ) 工業

事業所数、従業者数及び製造品出荷額とも、平成 22 年は全体的に減少しましたが、平成 25 年以降、従業者数と製造品出荷額は増加傾向にあります。

■工業の推移

年 度	事業所数	従業者数 (人)	製造品出荷額 (百万円)
平成 17 年	83	1,382	26,170
平成 22 年	65	1,343	27,248
平成 25 年	62	1,457	30,606
平成 26 年	63	1,485	34,795
平成 29 年	60	1,635	35,689

(資料：工業統計調査)

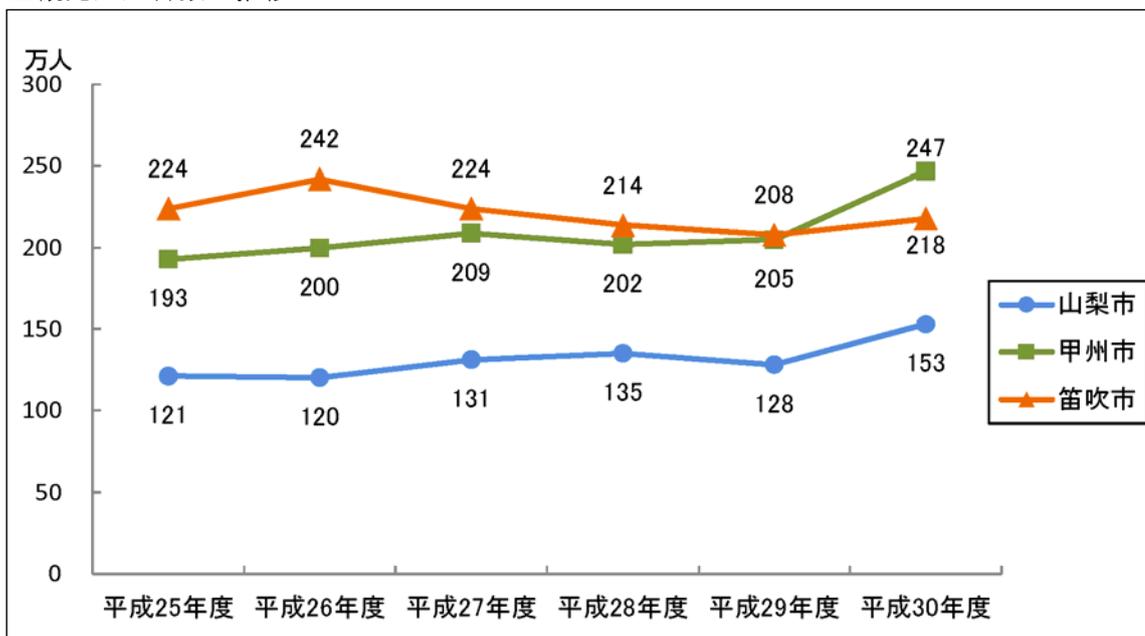
(エ) 観光

本市を訪れる観光客は年間約 120 万人～130 万人で、近年はほぼ横這いの状況となっており、峡東地域においては、笛吹市や甲州市を下回っています。

地域別では、石和温泉・果実郷、勝沼・ぶどう郷周辺、西沢渓谷・フルーツ公園周辺の順となっています。

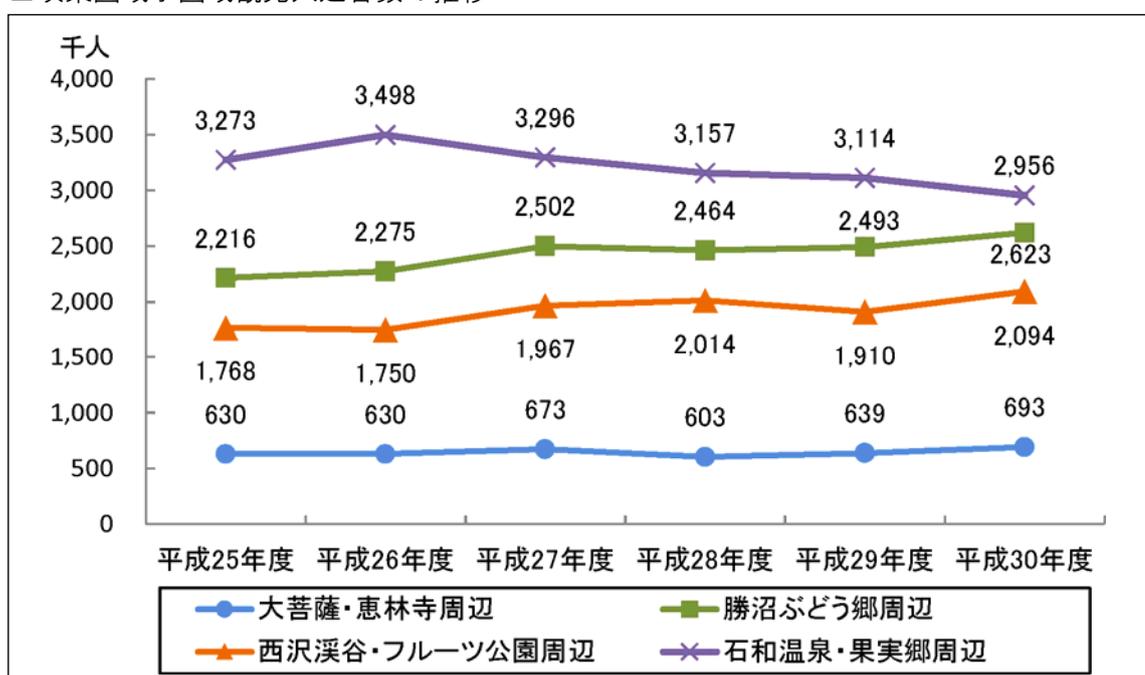
本市を含む峡東地域は、平成 30 年に「葡萄畑が織りなす風景」として日本遺産に認定されるなど、農業・農村資源と美しい自然環境や文化財、温泉等を併せ持つ観光地としての可能性に期待が寄せられています。

■観光入込客数の推移



(資料：山梨県観光入込客数統計調査報告書)

■峡東圏域小圏域観光入込客数の推移



(資料：山梨県観光入込客数統計調査報告書)

(4) 土地利用

本市の土地利用は大きく北部の山岳・森林ゾーン、笛吹川右岸の里山・丘陵地ゾーン、南部の笛吹川扇状地に広がる市街地と農業集落ゾーンに分けられます。

市街地は、南部の笛吹川左岸を中心に形成され、用途地域が指定されています。

北部の山岳・森林ゾーンは、国立公園や自然保全地域及び保安林が、市街地周辺の農地については、農業振興地域が指定されています。

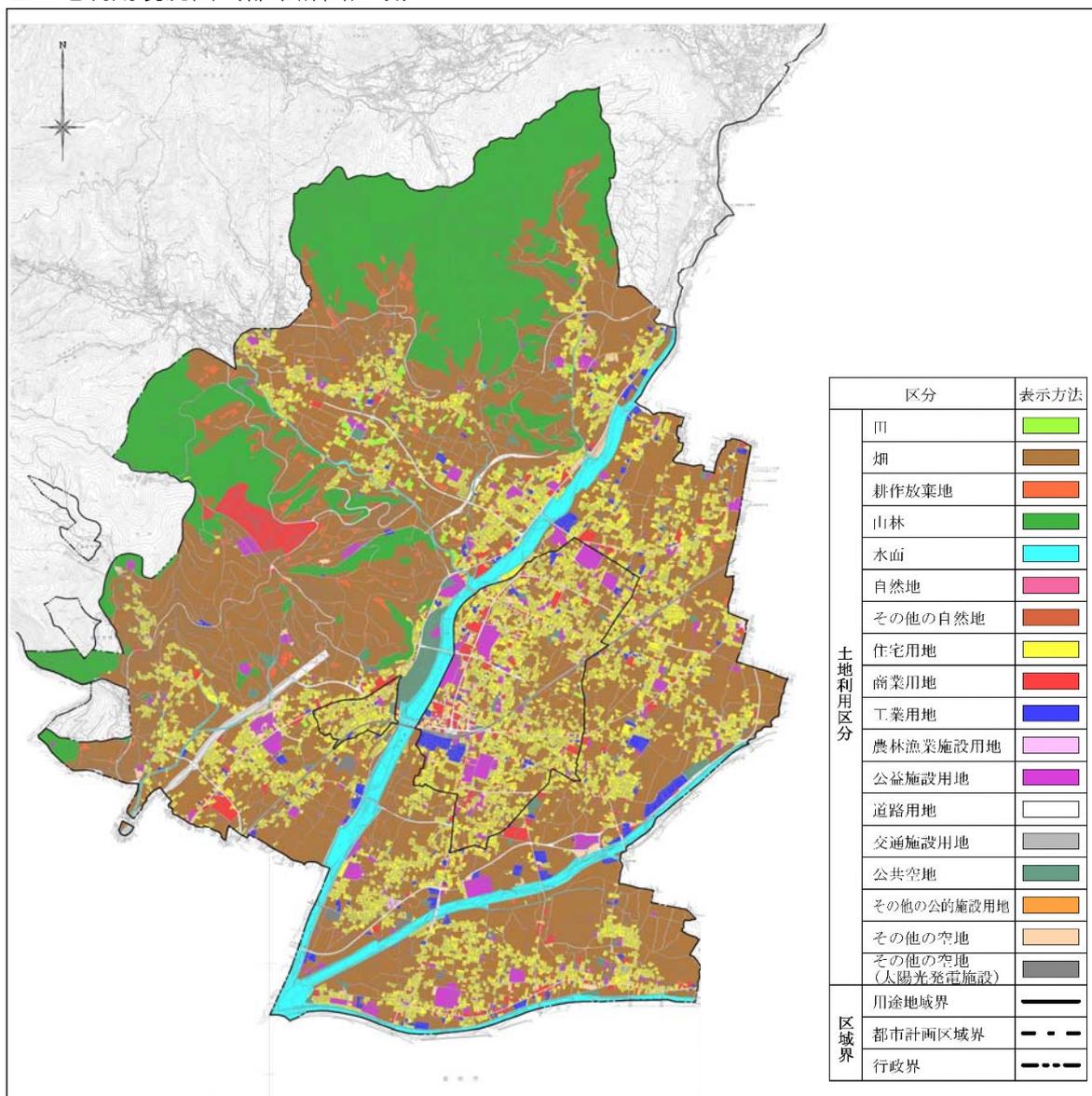
① 土地利用の現況

本市の土地利用は、北部の山岳・森林地帯、笛吹川右岸西部の丘陵地帯、南部の笛吹川扇状地に広がる市街地とその周辺の農地に大別され、森林が市の面積の8割以上を占めています。

土地利用別では、宅地が2.7%、農地は7.0%で、森林が81.7%を占めています。

宅地と農地の大部分は山梨地域に分布しており、森林のほとんどは牧丘地域と三富地域に分布しています。

■土地利用現況図（都市計画区域）



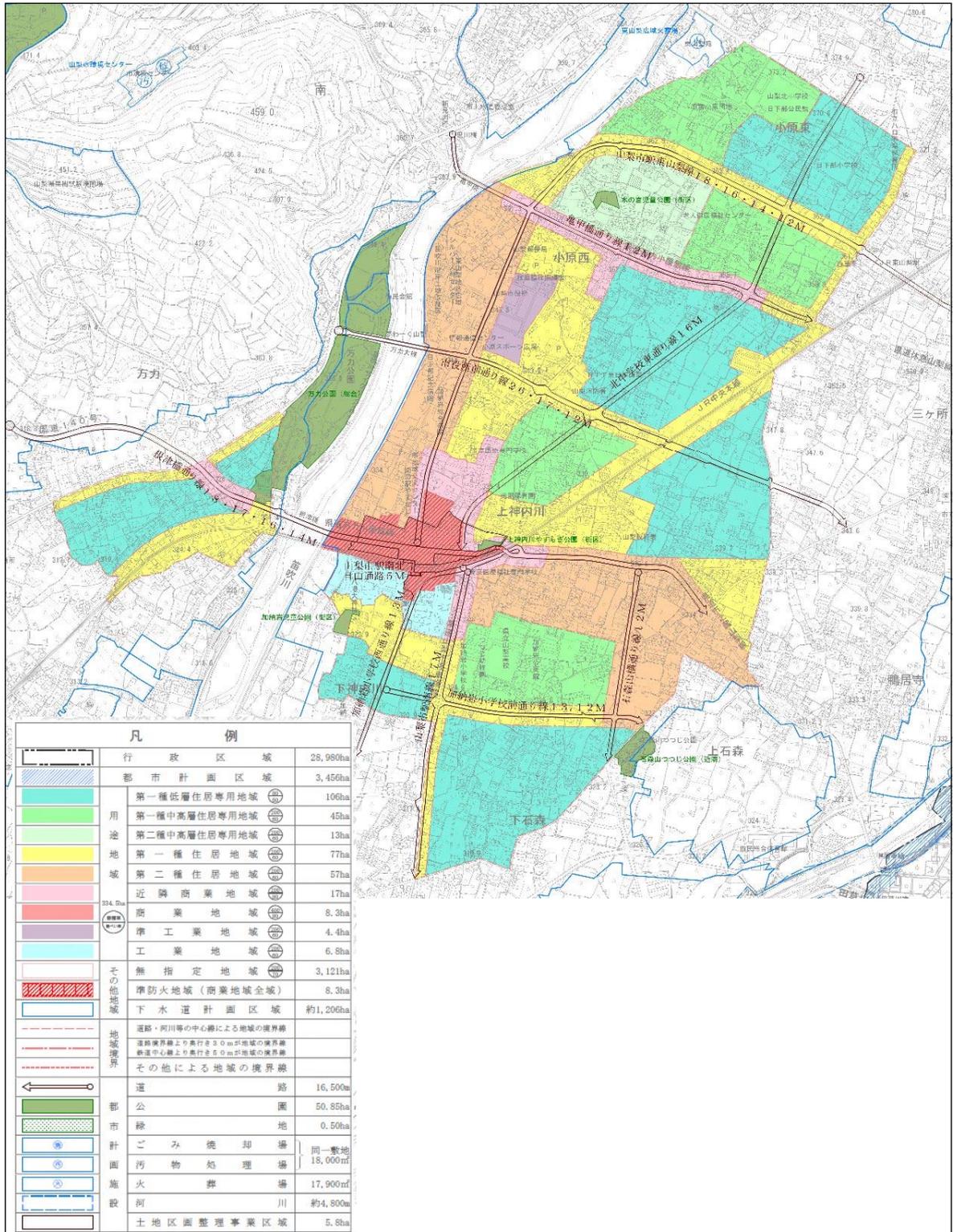
(資料：平成29年度山梨市都市計画基礎調査)

② 都市計画の指定状況

本市では、都市計画法に基づく都市計画区域（面積 3,456ha）と市街地を対象とした用途地域（面積 334.5ha）が指定されています。用途地域の約9割が住居系地域となっています。

都市計画区域内の用途地域外の地域については、建物の規模（建ぺい率・容積率）に関する規制のみが定められています。

■ 都市計画の指定状況



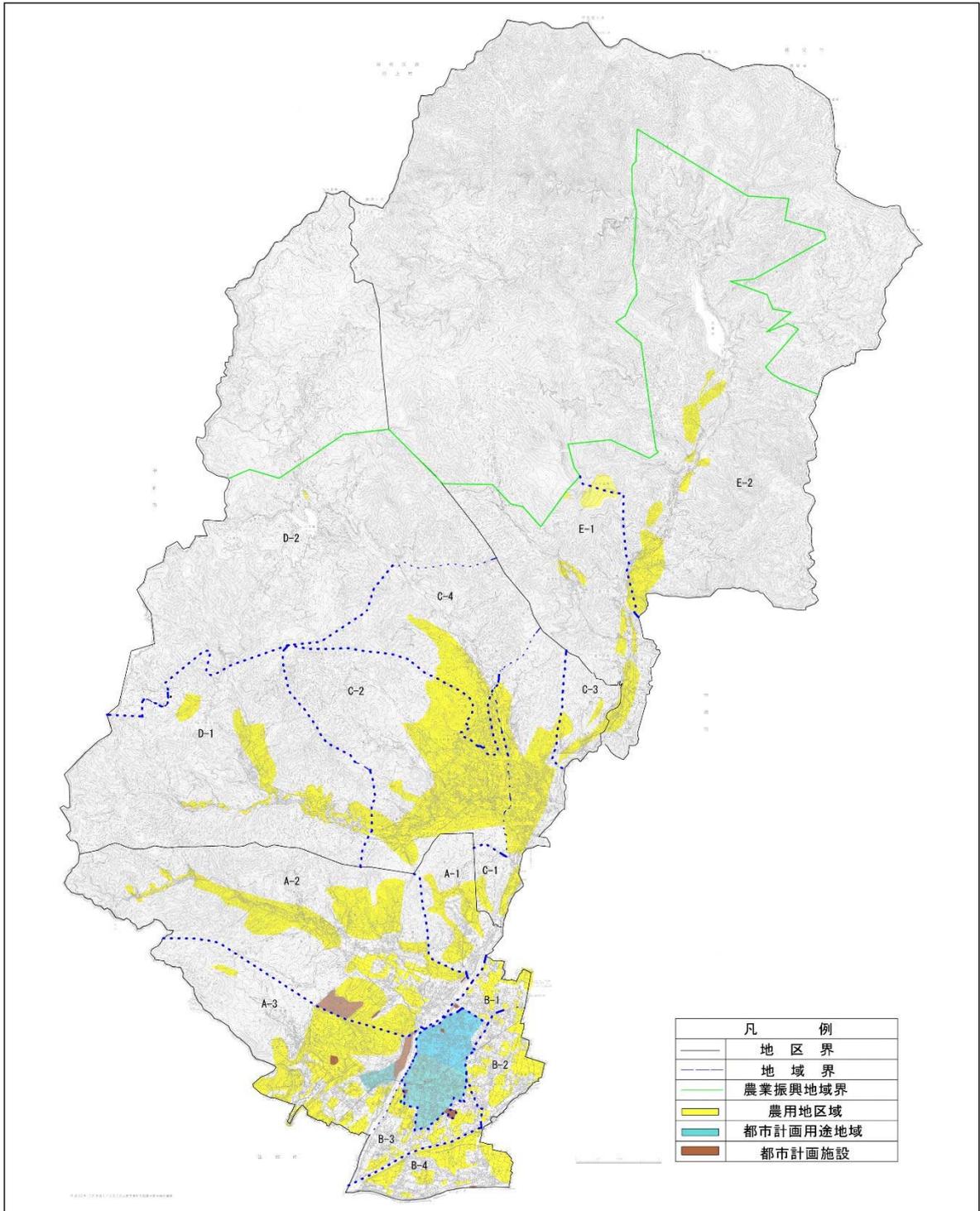
（出典：山梨市都市計画図）

③ 土地利用規制の状況

そのほか、本市では、法に基づき以下のような土地利用規制がかけられています。

- ・ 農振法に基づく農業振興地域と農用地区域
- ・ 森林法に基づく保安林（北部森林地域）及び地域森林計画対象民有林（北部森林地域、丘陵部・平地部の森林）
- ・ 自然公園法に基づく秩父多摩甲斐国立公園（北部の山岳・森林地域）
- ・ 自然環境保全法に基づく自然保全地域（小金沢山周辺）

■ 農振農用地区域の指定状況



(出典：山梨農業振興地域整備計画)

(5) 道路・交通

本市の幹線道路としては高規格道路である西関東連絡道路をはじめ、国道 140 号など国道3路線、県道6路線と都市計画道路で都市の骨格を形成しています。

鉄道ではJR中央本線山梨市駅、東山梨駅が立地し、バス路線としては、3つの市営バスと2つの民間路線バスが運行しています。

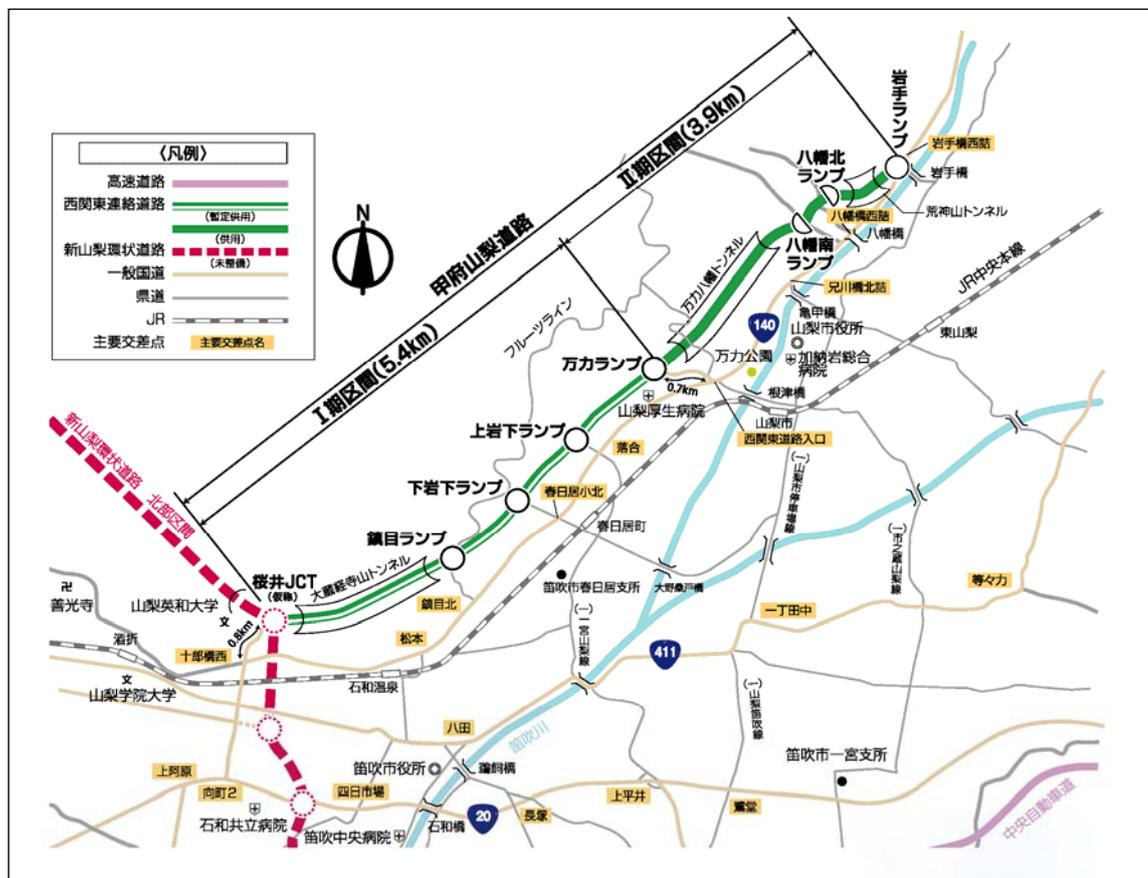
① 幹線道路網

(ア) 幹線道路

幹線道路としては、高規格道路の西関東連絡道路、笛吹川沿いを南北に走る国道140号、南部の日川沿いを東西に走る国道411号の3路線があり、本市の骨格を形成しています。

西関東連絡道路については、Ⅰ期区間（甲府市桜井町～山梨市万力）が平成18年12月に開通し、Ⅱ期区間（山梨市万力～山梨市東）が平成30年3月に開通し、甲府山梨道路全区間が完成しました。

■ 西関東連絡道路の概要



(出典：西関東連絡道路パンフレット（一部修正）)

(イ) 主要な地域幹線道路

その他の主要な幹線道路として、県道甲府山梨線、県道山梨市停車場線ほか県道6路線、山梨地域の整備済都市計画道路、丘陵地域の広域農道（フルーツライン）、クリスタルラインなどがあり、地域の骨格を形成しています。

特に、山梨地域はこれらの主要な幹線道路が集中し、交通の要衝となっています。

また、牧丘地域、三富地域については、国道・県道が地域と市街地を結ぶ重要な路線となっているとともに、生活道路としての役割も果たしています。

■幹線道路の交通量

路線名	平日 12 時間交通量 (台)	混雑度	観測地点
一般国道 140 号	7,649	0.72	万力 2049
〃	4,060	0.46	落合 407
一般国道 411 号	3,979	0.37	上栗原 1020
〃	8,898	0.93	一町田中 259
県道甲府山梨線	399	0.14	水口 2370
県道山梨市停車場線	4,646	1.19	上神内川 144

(資料：平成 29 年度山梨市都市計画基礎調査)

② 鉄道・バス

(ア) 鉄道

本市は JR 中央本線が通り、市内には山梨市駅と東山梨駅が設置されています。

乗車人員としては、山梨市駅は年間約 66 万人で横ばい傾向にあります。

■鉄道駅の乗降客数

年 度	山梨市駅		東山梨駅	
	年間乗車人員 (人)	1 日平均乗車人員 (人)	年間乗車人員 (人)	1 日平均乗車人員 (人)
平成 17 年	678,170	1,858	206,590	566
平成 22 年	646,050	1,770	243,820	668
平成 24 年	661,745	1,813	260,610	714
平成 27 年	660,285	1,809	-	-
平成 28 年	650,795	1,783	-	-
平成 29 年	652,620	1,788	-	-

(資料：JR 東日本ホームページ)

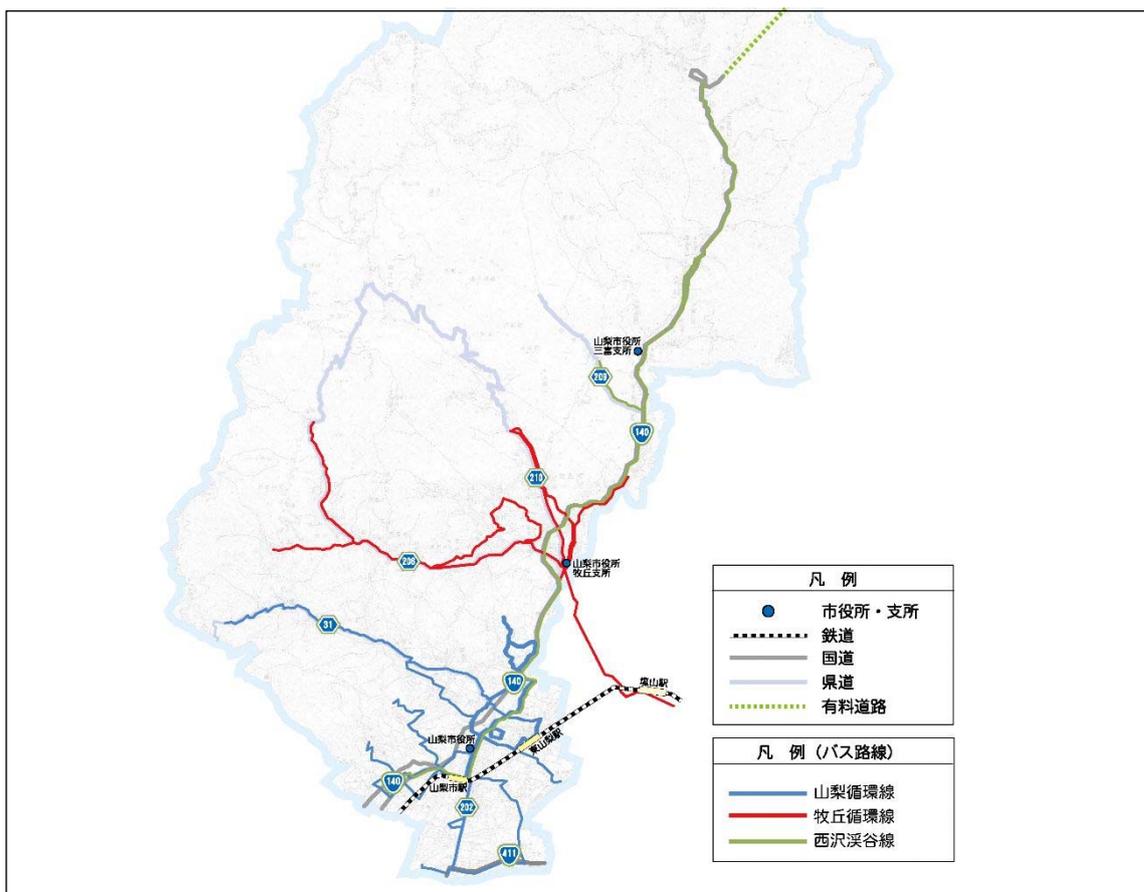
(イ) バス

本市のバス路線は、3つの市営バスと2つの民間路線バスが運行しています。

市営バスは山梨市巡回バスを引き継いだ山梨循環線（山梨地域巡回）、牧丘町営バスを引き継いだ牧丘循環線（牧丘地域巡回）、西沢渓谷へ向かう西沢渓谷線の3つに分かれています。また、民間の路線バスは、山梨厚生病院～石和温泉駅と塩山・酒折線が走っています。

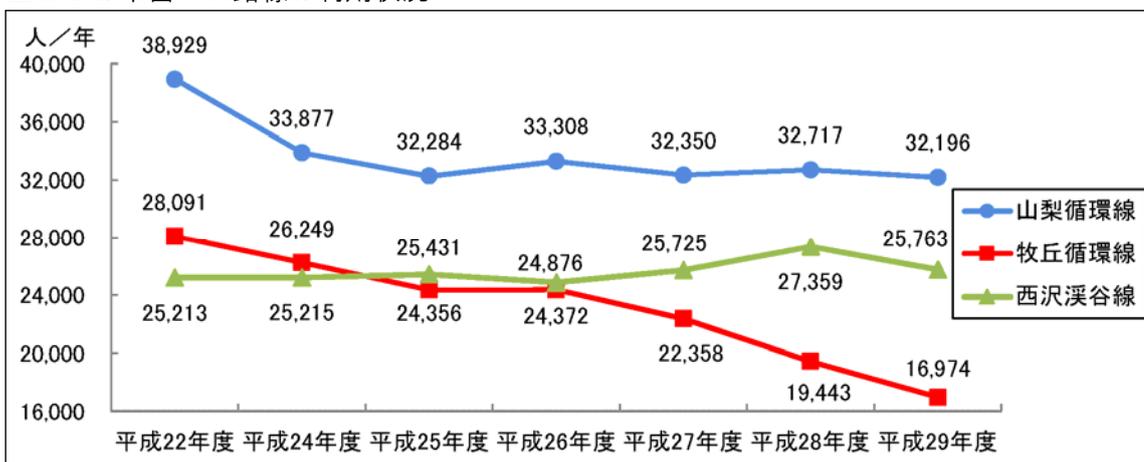
利用状況を見ると、観光に利用されている西沢渓谷線は横ばい傾向にありますが、山梨循環線と牧丘循環線は減少傾向にあります。

■市営バス路線



(資料：山梨市総務課資料)

■3つの市営バス路線の利用状況



(資料：統計やまなし平成29年版)

(6) 基盤施設の整備状況

都市基盤施設としては、山梨市駅前土地区画整理事業をはじめ、都市計画道路、公園・緑地、供給処理施設(上水道、下水道)、河川、公共施設などの整備が進められています。

① 市街地整備

(ア) 土地区画整理事業

山梨市駅北口駅前において、駅前広場を含む駅前市街地の整備を図るために以下のような土地区画整理事業を実施しています。

■土地区画整理事業の整備状況

事業名	事業主体	施行面積	事業期間		整備状況
			開始年度	完了年度	
峡東都市計画事業 山梨市駅前土地区画 整理事業	山梨市	5.8ha	平成5年度	平成36年度	事業中

(資料：平成29年度山梨市都市計画基礎調査)

(イ) 計画的なまちづくりの検討

山梨市駅と東山梨駅の間に位置する「(通称)南反保地域」は、平成15年度には市役所前通り線の整備が一部終了しましたが、地区内は緊急車輛の進入が困難な狭隘な道路が多く、土地利用や防災上の問題を抱えており、課題解決に向けた取り組みが求められています。

② 都市計画道路

本市の都市計画道路は、合計12路線が計画決定されていますが、平成30年現在、全体の整備率は約55%となっています。

長期未着手路線も数路線存在することから、今後の都市づくりを見据えた都市計画道路網の再編整備の検討が必要となっています。

■都市計画道路の整備状況

路線数	計画延長	整備済延長	整備率
11	16,500m	9,078m	55.0%

(資料：山梨市都市計画課資料)

■都市計画道路の整備状況

番号	路線名	幅員 (m)	計画延長 (m)	整備済延長 (m)	整備率 (%)
3・2・105	西関東連絡道路	36・27・25・18	1,540	1,540	100.0
3・4・4	山梨市駅東山梨線	18・16・14・12	3,400	3,050	89.7
3・4・5	根津橋通り線	18・17・16・14	2,590	2,590	100.0
3・4・6	市役所前通り線	26・17・12	1,840	1,007	54.7
3・4・7	北中学校東通り線	16	2,160	94	4.4
3・5・11	亀甲橋通り線	12	1,400	103	7.4
3・4・8	山梨市駅南線	17	1,080	0	0
3・5・16	加納岩小学校前通り線	13・12	880	694	78.9
3・5・17	石森山横通り線	12	700	0	0
7・5・1	加納岩小学校西通り線	13	800	0	0
8・7・1	山梨市駅南北自由通路	5	110	0	0

(資料：平成 29 年度山梨市都市計画課資料)

③ 公園・緑地

総合公園である万力公園や笛吹川フルーツ公園をはじめとした 8 箇所の都市計画公園と都市緑地が計画決定され、笛吹川フルーツ公園の一部を除き、全ての公園緑地が整備済となっています。

しかしながら、全体的に市街地や集落地において、歩いて利用できる身近な公園・広場が不足している状況です。

■公園緑地の整備状況

名称	種別	計画面積(ha)	整備済 (ha)	整備率 (%)
万力公園	総合公園	14.0	14.0	100.0
笛吹川フルーツ公園	総合公園	32.2	27.6	85.7
石森山つつじ公園	近隣公園	1.2	1.2	100.0
金桜公園	近隣公園	2.1	2.1	100.0
加納岩児童公園	街区公園	0.40	0.40	100.0
笛吹児童公園	街区公園	0.43	0.43	100.0
水の宮児童公園	街区公園	0.34	0.34	100.0
上神内川やすらぎ公園	街区公園	0.18	0.18	100.0
日川緑地	緑地	0.50	0.50	100.0

(資料：平成 29 年度山梨市都市計画基礎調査)

④ 供給処理施設

(ア) 上水道

本市の上水道は、山梨地域で上水道事業、牧丘地域及び三富地域では簡易水道事業、小規模水道事業により供給を行っています。

現在上水道事業については、山梨地域の山間部の簡易水道を上水道に統合し、峡東地域広域水道企業団（琴川ダム）からの入水により、上水道供給エリアを拡大しました。簡易水道事業や小規模水道事業については、牧丘地域において、簡易水道の統合を進め、平成28年度に統合が完了しました。また、三富地域においては、興南減圧井や上柚木ポンプ場を整備しました。

(イ) 下水道

本市では、峡東流域下水道関連公共下水道として事業着手しており、平成31年3月末現在の全体計画処理区域面積は山梨地域1212.8ha、牧丘地域140ha、計1352.8haとなっており、そのうち山梨地域715.2ha、牧丘地域120.6ha、計835.8haが整備済です。整備率に関しては、山梨地域58.9%、牧丘地域86.1%であり、市内全体では約61.8%となっています。

また、終末処理施設は、笛吹市の峡東浄化センターであり、本市のほかに甲府市、笛吹市、甲州市の4市の汚水を一括処理しています

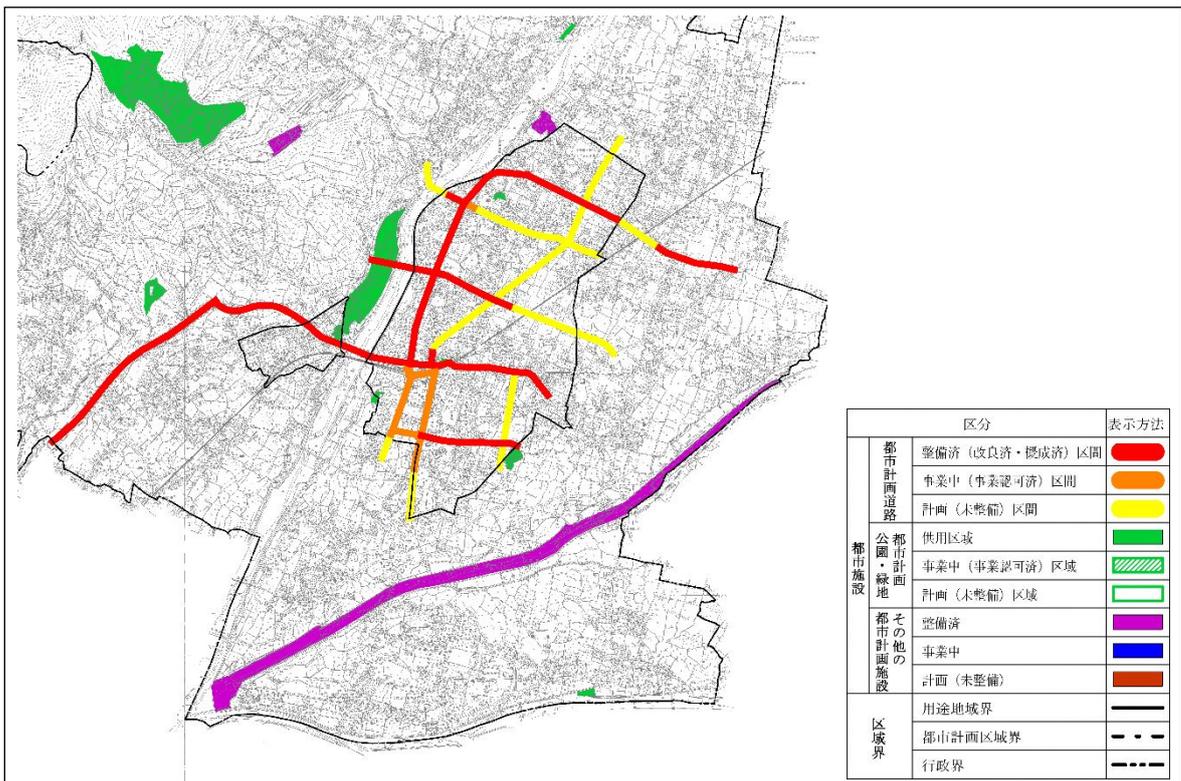
⑤ 河川

重川は、市内の区間約4,800mについて、改修整備が行われています。

⑥ その他の都市施設

その他の都市施設としては、東山梨広域火葬場、山梨市環境センター（ストックヤード・し尿処理場）が整備されています。

■ 基盤施設の整備状況



（資料：平成29年度山梨市都市計画基礎調査を加筆修正）

⑦ 主な公共施設

本市の主要な公共施設としては、下表に示す施設が挙げられます。

本市では、本格的な人口減少社会や少子高齢社会など、将来を見据えた適正な公共施設の維持管理を推進するため、平成 29 年 3 月に「山梨市公共施設等総合管理計画」を策定しました。

■山梨市の主な公共施設

区 分		施設数	主な施設
学校教育施設	幼稚園	1	つつじ
	小学校	13	加納岩、日下部、後屋敷、日川、山梨、八幡、岩手、笛川（休校）笛川小学校柳平分校（閉校）旧牧丘第二、旧牧丘第三、旧三富、旧堀之内
	中学校	3	山梨南、山梨北、笛川
市民文化系施設	集会施設	19	地区公民館、山梨市地域交流センター（街の駅やまなし）など
	文化施設	3	山梨市民会館・図書館、山梨市牧丘町総合会館、山梨市花かげホール
スポーツ・レクリエーション施設	スポーツ施設	11	市民総合体育館、石原なち子記念体育館、牧丘B&G海洋センター、屋内温水プール、三富市民プールなど
	レクリエーション・観光施設	28	道の駅花かげの郷まきおか、花かげの湯、鼓川温泉、牧丘交流促進センター、保健農園ホテルフフ山梨、道の駅みとみ、みとみ笛吹の湯、三富久渡の沢つり場、大弛小屋、高原ヒュッテ、広瀬湖ふるさと記念館など
子育て支援施設	保育園	11	後屋敷、山梨、八日市場、八幡、岩手、窪平（休園）倉科、西保、杣口（閉園）市川、三富
	幼児・児童施設	9	加納岩児童センター、日下部児童センター、山梨児童センター、おおとり学童クラブ、後屋敷学童クラブ、日川学童クラブ、八幡学童クラブ、岩手学童クラブ、笛川学童クラブ
保健・福祉施設	高齢福祉施設	2	老人健康福祉センター・デイサービスセンター、養護老人ホーム晴風園
	障害福祉施設	1	ひまわりの家
医療施設		2	牧丘病院、三富診療所
行政系施設	庁舎等	4	山梨市役所、山梨市役所牧丘支所、山梨市役所三富支所、三富庁舎倉庫
	その他	5	旧山梨市情報通信センター、山梨市社会福祉協議会庁舎など
公営住宅		31	柿田住宅、宗高住宅、大野団地、小原団地、定住促進住宅（小原東住宅）、定住促進住宅（小原東第二住宅）、天神原住宅、北中沢住宅、万力住宅、日川団地、新居住宅、藤の木団地、窪平住宅、千野々宮住宅、東窪住宅、東窪上住宅、東窪第二住宅、隼住宅、堀の内団地、緑ヶ窪住宅、請地上住宅、請地下住宅、中尾団地、古宿団地、牧丘第三小学校旧教員住宅、若者定住促進住宅、馬込住宅第一住宅、馬込住宅第二住宅、雷第一住宅、雷第二住宅

（参考：山梨市公共施設等総合管理計画）

(7) 防災の状況

本市は、「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されていることから、地域防災計画や土砂災害・洪水ハザードマップを作成し、防災拠点・避難場所等の指定など、総合的な防災対策を推進しています。

① 土砂災害・洪水ハザードマップ

本市では、台風や集中豪雨などによる土石流やがけ崩れなどが発生した場合に被害の及ぶ恐れのある「土砂災害警戒区域」と、洪水などによる河川の氾濫によって堤防が決壊した際の「浸水想定区域」を示したハザードマップを平成 25 年 3 月に作成し、平成 30 年度に更新しました。

② 防災拠点・避難場所等

本市では、地域防災計画に基づき、以下のような防災拠点・避難場所等が指定されています。

■ 防災拠点・避難場所等

区 分	指 定 施 設
防災拠点	ヘリポート（グラウンド、校庭など 22 箇所） 水防倉庫（核地区単位で計 11 箇所）
二次避難地	小中学校、高校のグラウンド、公共施設広場など計 30 箇所
避難所	小中学校の体育館、公民館など 35 箇所
広域避難地	笛吹川フルーツ公園

（資料：平成 29 年度山梨市都市計画基礎調査）

(8) 主な地域資源

市内には、観光・レクリエーション施設、自然・山岳資源、歴史・文化資源、特産品・郷土料理、体験、温泉、イベント・行事など、多彩な地域資源があります。

① 観光・レクリエーション施設

山梨市駅の西側の高台に位置する「笛吹川フルーツ公園」は、「新日本三大夜景」に認定された全国屈指の夜景の名所であり、日中には甲府盆地を挟んで、富士山や南アルプスなどの山々が一望できるなど、優れた眺望に恵まれた本市の観光の核となる施設です。

一方、鉄道王の異名を持つ本市出身の実業家、根津嘉一郎の実家を復元・改修した「根津記念館」、地域の特産品を販売する「道の駅花かげの郷まきおか」や「道の駅みとみ」など、観光面でのさらなる活用が期待される施設もあります。

また、山梨市駅前の観光案内所では、地域の観光ボランティアガイドが観光案内を行っています。

② 自然・山岳資源

本市は、面積の約8割を森林が占め、北部は秩父多摩甲斐国立公園の中核部に位置するなど自然・山岳資源の宝庫で、令和元年に「甲武信ユネスコエコパーク」として登録されました。日本百名山の甲武信ヶ岳をはじめとする奥秩父主脈に連なる高峰からは抜群の眺望を誇り、登山者が絶えない乾徳山や小檜山、冬季にも比較的登山しやすい里山など、多種多様な山々を抱えています。

また、山梨県を代表する景勝地である西沢渓谷を筆頭に、徳和渓谷、清水渓谷（一之釜）などの風光明媚な渓谷、自然豊かな乙女高原、夢の庭園などは、いずれも観光資源として多大な魅力を有しています。

さらに、従来の登山・トレッキングに加えて、森林セラピー体験やサイクリングなど、豊富な自然・山岳資源を生かした数々の新たな取り組みも始まっています。

③ 歴史・文化資源

国宝の仏殿を有する清白寺や、武田家に篤く信仰された窪八幡神社など、市内には室町期の建造物が数多く残されています。

また、宝暦11年（1761年）建築の旧坂本家住宅（徳和）をはじめ、市内各地で近世以降に建てられた切妻型民家を見ることができます。

そのほか、明治期の温泉旅館建築が残る岩下温泉旅館旧館や鉄道王根津嘉一郎の実家を復元・改修した根津記念館は近代の様相を感じられる資源です。

一方、塩平の獅子舞や徳和の天神祭など、地域固有の伝統行事が市内各地で行われており、脈々と続く地域文化の継承をみることができます。

<参考> 日本遺産の認定

平成30年に文化庁により、「葡萄畑が織りなす風景—山梨県峡東地域—」のストーリーが、日本遺産*に認定されました。山梨市に関する構成遺産は下表の通りです。

■山梨市に関わる構成資産

構成資産の名称	文化財の指定状況	ストーリーの中の位置づけ	構成資産の所在地
葡萄畑	未指定	江戸時代に考案された棚栽培を改良し、平地から急斜面まで見渡す限り葡萄畑が広がっています。明治時代までは甲府盆地東部の勝沼地区に限られていましたが、現在では峡東地域の各地に広がっています。	山梨市 笛吹市 甲州市
甲州式棚栽培	未指定	竹を使った棚栽培により、江戸時代中期には甲州は日本一の葡萄生産量を誇るようになり、後に甲州式と呼ばれました。また明治31年に丈夫な針金を導入することにより、平地から急斜面まで葡萄を栽培できるようになりました。	山梨市 笛吹市 甲州市
清白寺	国宝 (建造物)	かつては周囲を水田や桑畑に囲まれていましたが、葡萄畑に転換したことにより葡萄畑の中に寺社が浮かぶような風景となっています。	山梨市
上野家住宅	県指定 有形文化財 (建造物)	武田氏家臣を祖とする豪農の江戸時代初期の武家屋敷。周囲の田畑が葡萄畑に転換したことで、現在では葡萄畑に囲まれた建造物となっています。	山梨市
駒井家住宅	未指定	近代の養蚕農家の特徴を持つ突上屋根を持つ甲州切妻型民家。周囲が葡萄畑に囲まれています。養蚕から葡萄栽培の転換を示す建造物。現在も茅葺を維持する牧丘町杣口の代表的な民家。	山梨市
大村家住宅	未指定	近代の養蚕農家の特徴を持つ越屋根付きの民家。周囲が葡萄畑に囲まれています。養蚕から葡萄栽培の転換を示す建造物。	山梨市
鶴田家住宅	未指定	近代の養蚕農家の特徴を持つ越屋根付きの民家。周囲が葡萄畑に囲まれています。養蚕から葡萄栽培の転換を示す建造物。	山梨市
宮沢家住宅	未指定	近代の養蚕農家の特徴を持つ越屋根付きの民家。周囲が葡萄畑に囲まれています。養蚕から葡萄栽培の転換を示す建造物。	山梨市
歴史的ワイナリー	未指定	日本のワイン産業の黎明期からワイン醸造を行っている創業100年以上の歴史をもつワイナリーや東京オリンピックを契機とするワインブーム以前に創業した50年以上の歴史をもつワイナリー。最新の設備などでワインづくりを行っています。	山梨市 笛吹市 甲州市
甲州ワイン	未指定	甲州ブドウを使用したワイン。	山梨市 笛吹市 甲州市

(資料：山梨市ホームページ)

注) *日本遺産 (JapanHeritage)：地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。

④ 特産品・郷土料理

本市はモモ、ブドウなど果樹栽培が盛んであり、観光農園が数多く存在します。果物狩りを目的に本市を訪れる来訪者は多く、観光における強い牽引力となっています。

一方、本市はワイン産地としても多くの方々に認識されています。その品質は国際的にも高い評価を得ており、観光資源のひとつとなっています。また、近年ではワインツーリズムも高い人気を博しており、ワイナリーでは来訪者に対する受け入れ態勢を整えています。

ほかにも市内の養鱒場で蓄養されるニジマスはブランド魚「甲斐サーモン」として高い評価を受けています。また、豊かな自然の恵みから作られる和洋菓子なども人気を博しているほか、ほうとうや馬刺しなど、郷土料理を提供している飲食店も数多くあります。

⑤ 体験

最近では、グリーンツーリズムや体験型・参加型ツーリズムに象徴されるように、旅行者が観光に求める価値観は多様化しています。

こうした中で、果物狩りや釣り堀に加え、豊富な森林資源を活用した森林セラピー体験や、西沢渓谷をはじめとするウォーキングガイドやフットパスなども、地域の特色を生かした取り組みとして注目を集めています。

⑥ 温泉

本市には3つの市営温泉のほか、武田信玄の隠し湯として知られる岩下温泉や川浦温泉、フルーツ公園の近傍に位置し眺望景観が魅力のほったらかし温泉、やまなしフルーツ温泉ぷくぷく、万葉の湯、養鰻場が付随している正徳寺温泉、源泉をミネラルウォーターに加工しているはやぶさ温泉など、特色のある温泉が数多くあります。

⑦ イベント・行事

本市は、一年を通じ魅力的なイベント、行事が数多く開催されています。代表的なものとしては、万力公園「万葉の森」で開催される「万葉うたまつりとホテル観賞会」、道の駅みとみ特設会場で開催される「笛吹川源流まつり」、笛川小学校をメイン会場とする「巨峰の丘マラソン大会」などがあげられます。

そのほか、市民団体が主体となって開催される「桃の花まつり」や「朝市」など、新たなイベントや行事も生まれてきています。

3. まちづくりへの市民の意向

(1) 第2次山梨市まちづくり総合計画住民アンケート調査

「第2次山梨市まちづくり総合計画」の策定にあたって実施した市民アンケート調査では、山梨市のまちづくり分野に関して次のような意向を示しています。

<調査概要>

- 調査期間：平成28年5月11日(水)～5月30日(月)
- 調査対象：山梨市全域、20歳以上の市民2,000人を比例配分による無作為抽出
- 調査方法：郵送による配布・回収
- 有効回収数：993、有効回収率：50%

<主な調査結果>

① 満足度・重要度について

満足度については、上下水道や保健・医療施設や高齢者施設、子育て環境などは高いが、魅力ある商工業の振興、公共交通機関の充実(市営バス等)、歩道等の整備充実等が低くなっています。

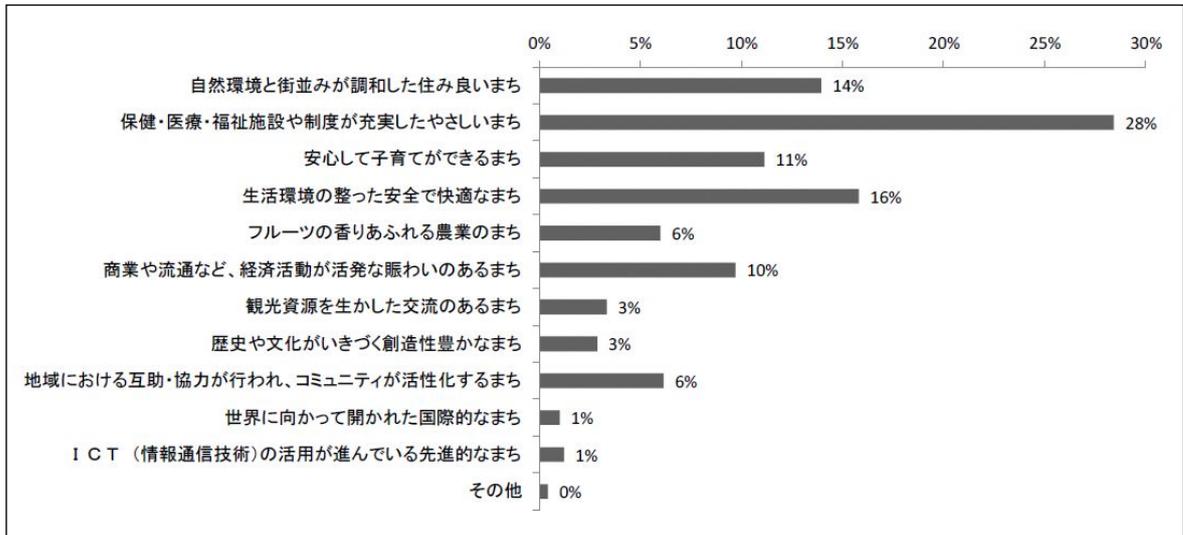
重要度は、保健・医療の充実、防災体制の充実、高齢者福祉施設や子育て環境の充実の順となっています。

■満足度・重要度

満足度ランキング			重要度ランキング		
順位	カテゴリ	満足度	順位	カテゴリ	重要度
1	水道の安定供給	82.4	1	保健・医療の充実	87.6
2	ごみ処理・環境美化の推進	77.3	2	防災体制の充実	85.6
3	義務教育の充実	75.5	3	子育て環境の充実	84.9
4	文化遺産の保存、地域文化の継承	74.1	4	水道の安定供給	84.1
5	保健・医療の充実	73.0	5	高齢者、障害者福祉の充実	84.0
6	公園整備、景観の保全	71.9	6	防犯体制の充実	83.6
7	下水道などの排水処理	70.5	7	義務教育の充実	82.1
8	生涯学習の推進、文化・スポーツの振興	69.9	8	ごみ処理・環境美化の推進	82.0
9	地域特性のある農業・林業の振興	69.7	9	下水道などの排水処理	80.5
10	子育て環境の充実	69.0	10	歩道等の整備、充実	79.3
11	公営住宅や宅地の整備	68.5	11	身近な生活道路の整備	78.9
12	高齢者、障害者福祉の充実	68.4	12	行財政運営の効率化	78.6
13	男女共同参画の推進	67.5	13	国道・県道など幹線道路の整備	78.0
14	案内・誘導表示などサンの設置	65.9	14	開かれた行政の推進	76.9
15	NPOなど市民活動の支援	65.3	15	魅力ある商工業の振興	76.1
16	防犯体制の充実	65.1	16	公共交通機関の充実(市営バス等)	76.0
17	防災体制の充実	64.5	17	地域資源を生かした観光振興	75.5
18	太陽光などの自然エネルギーの普及促進	63.9	18	地域特性のある農業・林業の振興	75.0
19	国道・県道など幹線道路の整備	63.2	19	案内・誘導表示などサンの設置	69.2
20	地域資源を生かした観光振興	63.0	20	公園整備、景観の保全	67.4
21	開かれた行政の推進	62.3	21	文化遺産の保存、地域文化の継承	67.3
22	身近な生活道路の整備	61.1	22	公営住宅や宅地の整備	66.9
23	行財政運営の効率化	60.8	23	生涯学習の推進、文化・スポーツの振興	66.5
24	歩道等の整備、充実	57.1	24	NPOなど市民活動の支援	64.9
25	公共交通機関の充実(市営バス等)	55.8	25	男女共同参画の推進	64.4
26	魅力ある商工業の振興	54.3	26	太陽光などの自然エネルギーの普及促進	62.4

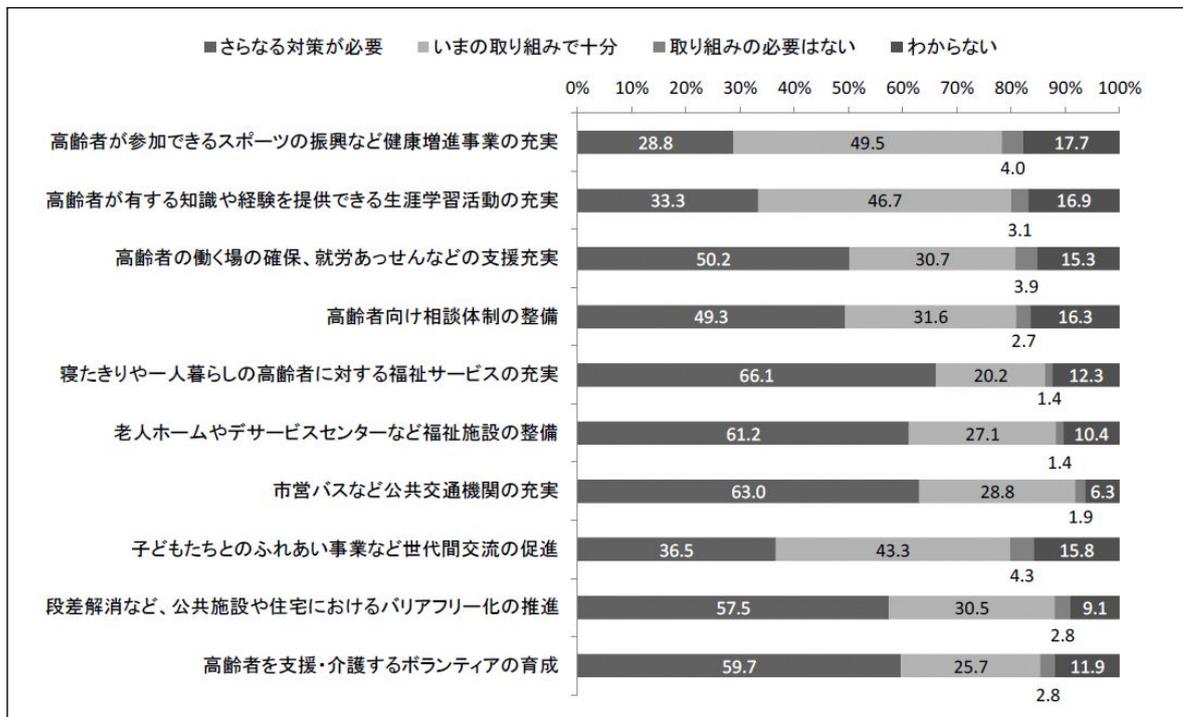
② 山梨市の将来像や望ましい地域イメージについて

山梨市の将来像については「保健・医療・福祉施設や制度が充実したやさしいまち」を望む声が28%と最も多く、次いで「生活環境の整った安全で快適なまち」(16%)、「自然環境と街並みが調和した良いまち」(14%)の順となっています。



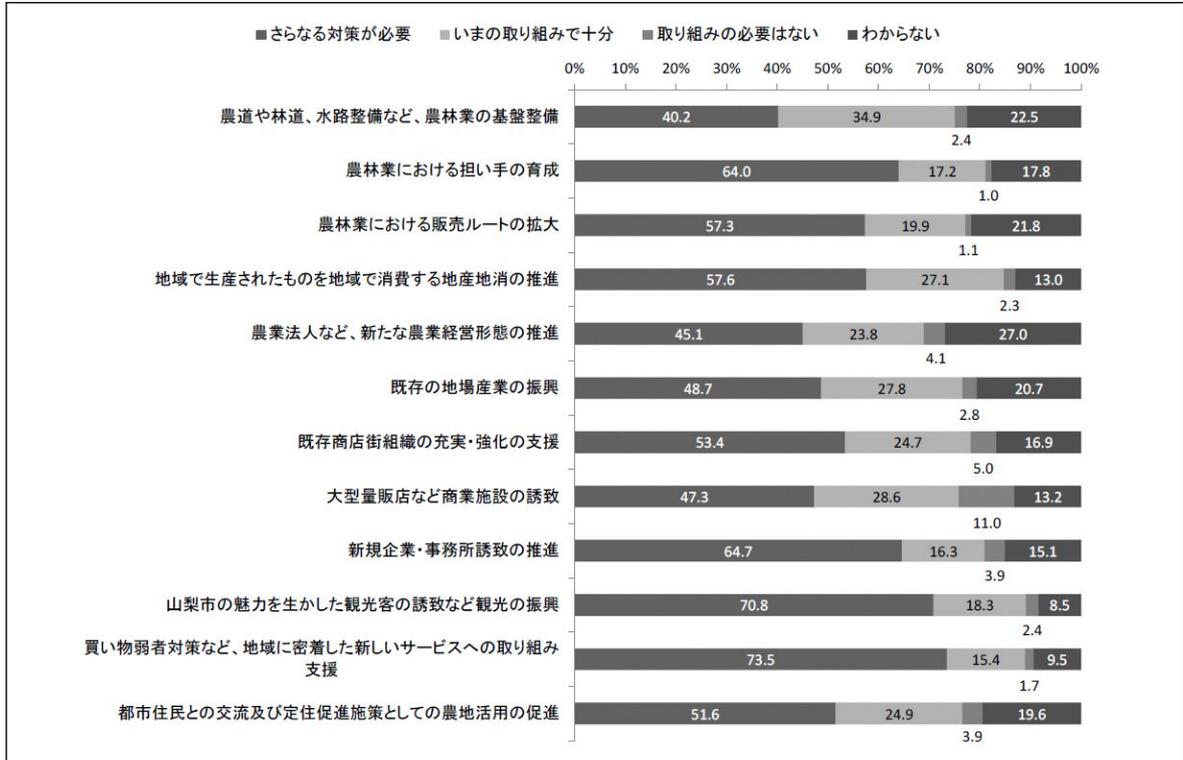
③ 高齢化が進む社会に対応するための取り組み

高齢化社会に対応するために必要とする取り組みとしては、「寝たきりや一人暮らしの高齢者に対する福祉サービスの充実」がもっと多く、次いで「市営バスなど公共交通機関の充実」、「老人ホームやデイサービスセンターなど福祉施設の整備」の順となっています。



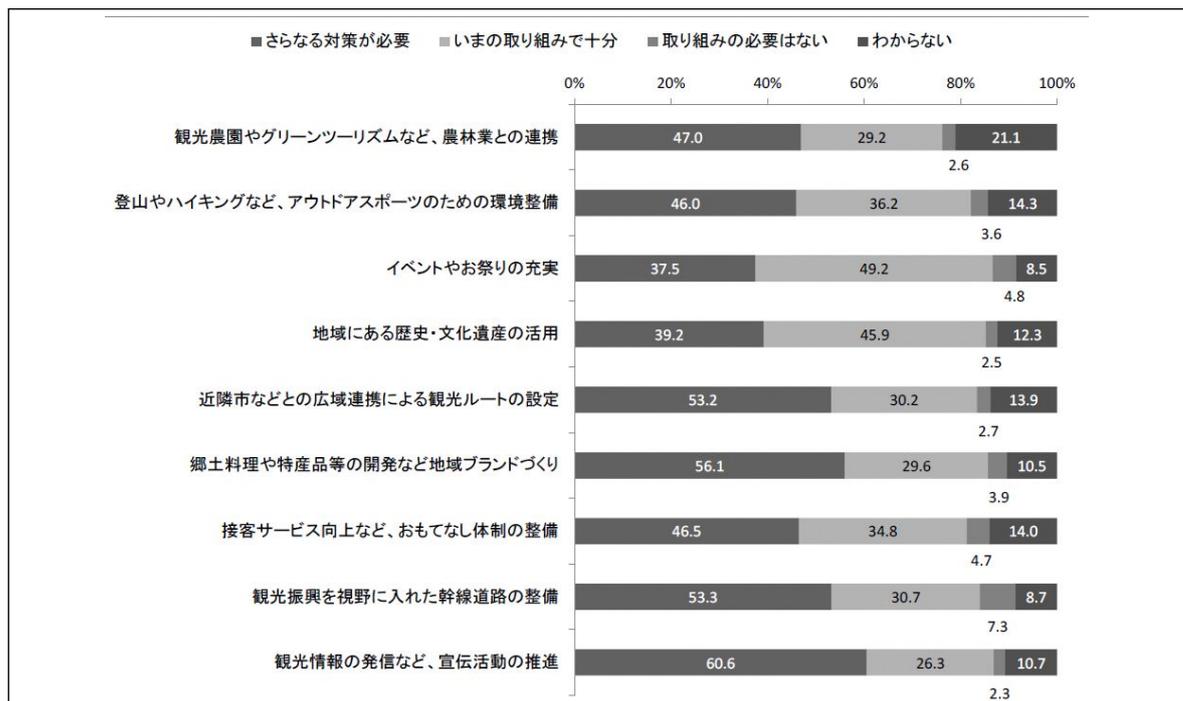
④ 産業(農林業・商業・工業・観光業)が発展するための取り組み

産業（農林業・商業・工業・観光業）が発展するために必要とする取り組みとしては、「買い物弱者対策など、地域に密着した新しいサービスへの取り組み支援」がもっと多く、次いで「山梨市の魅力を生かした観光客の誘致など観光の振興」、「新規企業・事務所誘致の推進」の順となっています。



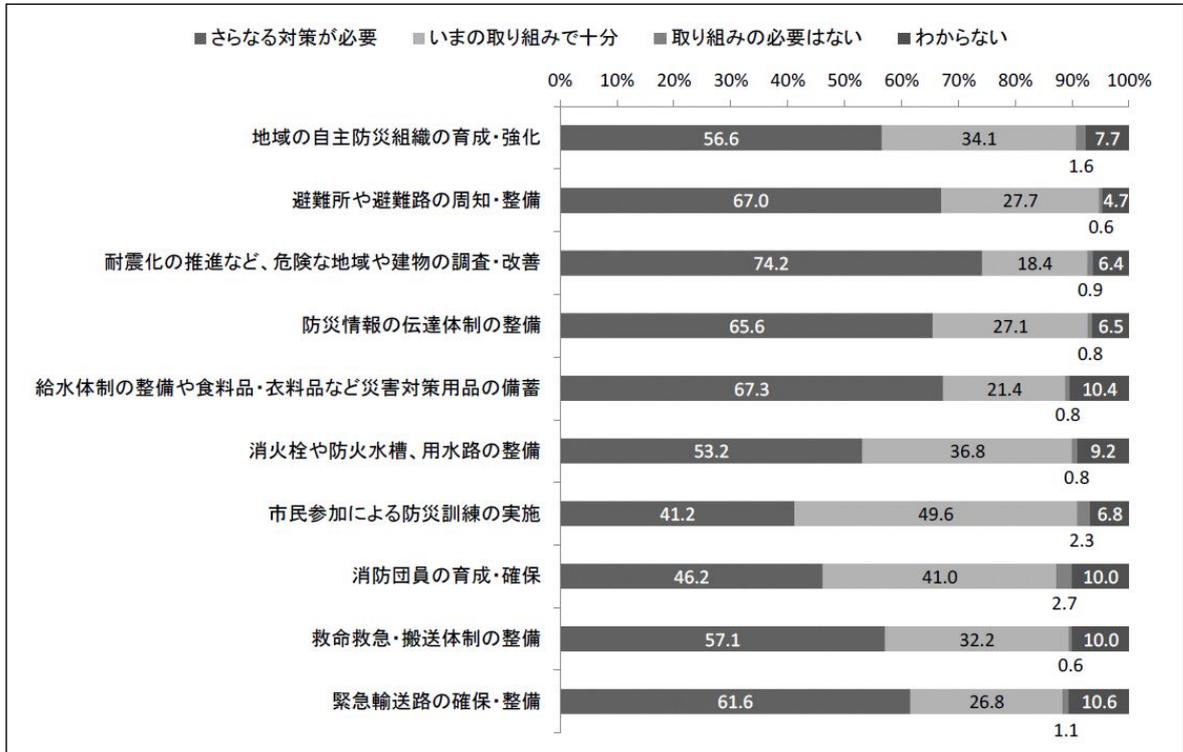
⑤ 観光を盛んにするための取り組み

観光を盛んにするために必要とする取り組みとしては、「観光情報の発信など、宣伝活動の推進」がもっと多く、次いで「郷土料理や特産品等の開発など地域ブランドづくり」、「観光振興を視野に入れた幹線道路の整備」の順となっています。



⑥ 災害に強いまちづくりを推進するための取り組み

災害に強いまちづくりを推進するために必要とする取り組みとしては、「耐震化の推進など、危険な地域や建物の調査・改善」が最も多く、次いで「給水体制の整備や食料品・衣料品など災害対策用品の備蓄」、「避難所や避難路の周知・整備」の順となっています。



4. まちづくりの課題

本市の特性、市民のまちづくりに関する意向や、人口減少化、少子高齢化の進行など、本市を取りまく社会経済的な動向等を踏まえ、今後のまちづくりに向けた課題を次のように整理しました。

【都市構造から見た課題】

① 人口減少、少子高齢化社会に対応した都市機能集約型の都市づくりを進めること

本市は、市の中央部を流れる笛吹川等の河川をはじめ、豊かな自然と美しい景観、眺望に恵まれた標高差のある大地の構造を土台に、市街地や集落地、樹園地が形成されており、コンパクトでわかりやすい都市構造を形成しています。

本市のこうした都市構造の特性を生かして人口減少社会、少子高齢化社会に対応した効率的な都市機能の集約化を図るとともに、多様な都市の拠点が相互に連携し、魅力を高めあう、コンパクトで一体感のある多核ネットワークの都市構造（コンパクト・プラス・ネットワーク）の構築が求められています。

【土地利用からみた課題】

② コンパクト・プラス・ネットワーク型の都市づくりに資する土地利用の促進と、地域の特性に応じた計画的な土地利用を進めること

本市の土地利用は、森林が市の面積の8割以上を占め、北部の山岳・森林地域、笛吹川右岸の丘陵地に広がる里山や山間集落地、南部の笛吹川扇状地には市街地や集落地といったコンパクトで、緑豊かな樹園都市が形成されています。

本市の特色である美しい自然や里山と都市との調和を図り、ふるさとの良好な環境を維持・向上するため、地域の特性にあった計画的な土地利用を進めていくことが必要です。

【道路・交通からみた課題】

③ 広域的、地域間の交流を促す体系的な道路交通ネットワークや公共交通の強化と、安全・安心な交通環境づくりを進めること

本市の主要な幹線道路としては、西関東連絡道路、国道140号、国道411号をはじめ、県道甲府山梨線、県道山梨市停車場線など県道6路線、山梨地域の都市計画道路、丘陵地域の広域農道（フルーツライン）、クリスタルラインなどがあり、地域の骨格を形成しています。特に、山梨地域はこれらの主要な幹線道路が集中し、交通の要衝となっています。

鉄道ではJR中央本線山梨市駅と東山梨駅があり、バス路線は3つの市営バスと2つの民間路線バスが運行しています。

本市が目指すコンパクト・プラス・ネットワーク型の都市構造の形成を図るため、都市計画道路の整備など、地域間、拠点間を連携する体系的な幹線道路ネットワークや公共交通の強化が求められています。

さらに、長期間未着手となっている都市計画道路については、適切な見直しが必要です。

そのほか、山梨市駅と東山梨駅、バスターミナルなどの主要な交通拠点の機能強化、主要な幹線道路の交通渋滞の緩和、主要な交差点や通学路等の交通安全対策の強化などにより、安心・安全な交通環境づくりを進める必要があります。

【自然、景観、歴史文化等からみた課題】

④ 美しいふるさとの自然や景観、歴史文化資源等を守り、まちづくりに活用していくこと

本市北部の山岳森林地域は、秩父多摩甲斐国立公園に指定され、甲武信ヶ岳などの秩父の山々や、西沢渓谷などの風光明媚な渓谷、特色ある自然や景観が展開する乙女高原、夢の庭園など、豊かな自然資源に恵まれています。そのほか、優れた眺望景観、清白寺や窪八幡神社などの歴史文化資源、笛吹川フルーツ公園や万力公園などの観光レクリエーション施設など豊富な地域資源に恵まれています。

特に、平成30年に文化庁により、「葡萄畑が織りなす風景―山梨県峡東地域―」のストーリーが、日本遺産に認定されました。

これらの優れた地域資源については、今後とも維持保全に努めるとともに、地域振興やまちづくりに効果的に活用していくことが望まれます。

【都市の活力からみた課題】

⑤ 農業や観光等の地域産業、交流の活性化など、都市全体の活力を高めていくこと

本市は、ブドウ・モモ等の果樹栽培を中心とした農業や観光農業を基幹産業としてこれまで発展してきました。しかしながら、農家人口や農家数の減少、後継者不足、担い手の高齢化や耕作放棄地の増加など、農業をとりまく環境は厳しく、多くの課題を抱えています。

本市が、今後とも活力ある都市として発展していくためには多様化するニーズに応える都市の魅力づくりを進めていく必要があります。

このため、主産業である農業や観光をはじめ、工業・商業の振興、企業誘致の促進や定住の促進、自然、景観、歴史・文化的遺産、観光レクリエーション施設など、多様な地域資源を積極的にまちづくりに活用し、一層の魅力を引き出し、都市全体の活力を高めていくことが望まれます。

また、産業や都市の活力を高めるとともに、農業・農村資源と美しい自然環境や文化財、温泉等を併せ持つ総合型の観光地としての可能性にも期待が寄せられています。

【防災面からみた課題】

⑥ 水害や地震などの災害に強いまちづくりを進めること

笛吹川、重川、日川の3川が合流する本市の南部は、地形上、古くから水害との戦いの歴史でもありました。また、本市は、山梨県の多くの地域とともに南海トラフ地震の地震防災対策推進地域に指定されています。

東日本大震災やその後我が国で頻繁に起こった大規模水害等を契機に、人々の防災に関する意識は高まっており、「第2次山梨市まちづくり総合計画」における市民アンケート調査では、「災害に強いまちづくりを推進する取り組み」について高い関心を示しています。

本市では、「山梨市地域防災計画」や「山梨市土砂災害・洪水ハザードマップ」を作成し、総合的な防災対策に努めているところです。

防災まちづくりの分野としては、防災拠点、避難地、避難所の機能強化、緊急輸送路の整備、防災設備の充実、自主防災組織の強化、市民の防災意識の醸成などが課題となっています。

【生活環境からみた課題】

⑦ 誰もが安心・快適に住み続けられる住環境づくりを進めていくこと

「第2次山梨市まちづくり総合計画」で実施した市民アンケート調査では、山梨市の将来像については「保健・医療・福祉施設や制度が充実したやさしいまち」や「生活環境の整った安全で快適なまち」を望む声が多く、まちづくりの重要度は、保健・医療の充実、防災体制の充実、高齢者福祉施設や子育て環境の充実の順となっています。

定住を促進し、市民の誰もが快適で、安全・安心に暮らせるよう、生活道路、公園、水道、下水道、保健・福祉・子育て、医療施設など、身近な生活環境の整備充実を図ることが必要です。



・斜面地に広がる果樹畑と市街地



・中心市街地のまちなみ